

発達協会セミナー： 自閉症児・者への治療と教育

自閉症へのスピーチセラピー ～指導の実際～

言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル

三好純太

本講の概要

◎自閉症児の言語・コミュニケーションの特性

◎自閉症児の言語能力の評価と指導法

◎年齢・発達水準として、小学校就学程度までの自閉症スペクトラム児を対象

自閉症研究の流れ

1943年 カナー 幼児自閉症を報告

1944年 アスペルガー アスペルガー症候群を記載

1968年 ラターら 言語・認知障害説を提唱

1985年 バロン=コーエンら 「心の理論」提唱

1996年 ウイング 「自閉症スペクトラム」提唱

1996年 リゾラッティら 「ミラー・ニューロン」発見

最近の研究動向

★「心の理論」

VS

「情緒的接触障害」(ホブソン)

★「アフォーダンス理論」からの示唆

自閉症の定義(ウィングの三つ組み)

- コミュニケーションの障害
- 想像的活動の障害
- 社会的相互行動における障害

自閉症児の持つ

言語・コミュニケーション障害

①言語発達遅滞

②構音障害

③プロソディ障害

④読み書き障害

⑤語用の障害



《他者との共感性・心理洞察を含めた
コミュニケーション全般の障害》

言語発達遅滞

- 言語未習得群
- 表出言語未習得群
- 言語発達遅滞群

構音障害

★異常構音の問題

- 声門破裂音

- 鼻咽腔構音

プロソディ障害

- アクセント

- 流暢性

読み書き障害

- 音読の非流暢性
- 書字衝動亢進

特異的症状に由来する コミュニケーションの障害

- 反響言語
- 独言
- 質問嗜好
- 字句拘泥
- 話題・関心の限局
- 抑揚・表情の乏しさ

コミュニケーション関係の発達 ●乳児期

生後3ヶ月

6ヶ月前後

9ヶ月～

療育者との
生理的共生

情動的共生

物への興味

三項関係成立

★共同注視

★言語習得の基礎

自閉症児

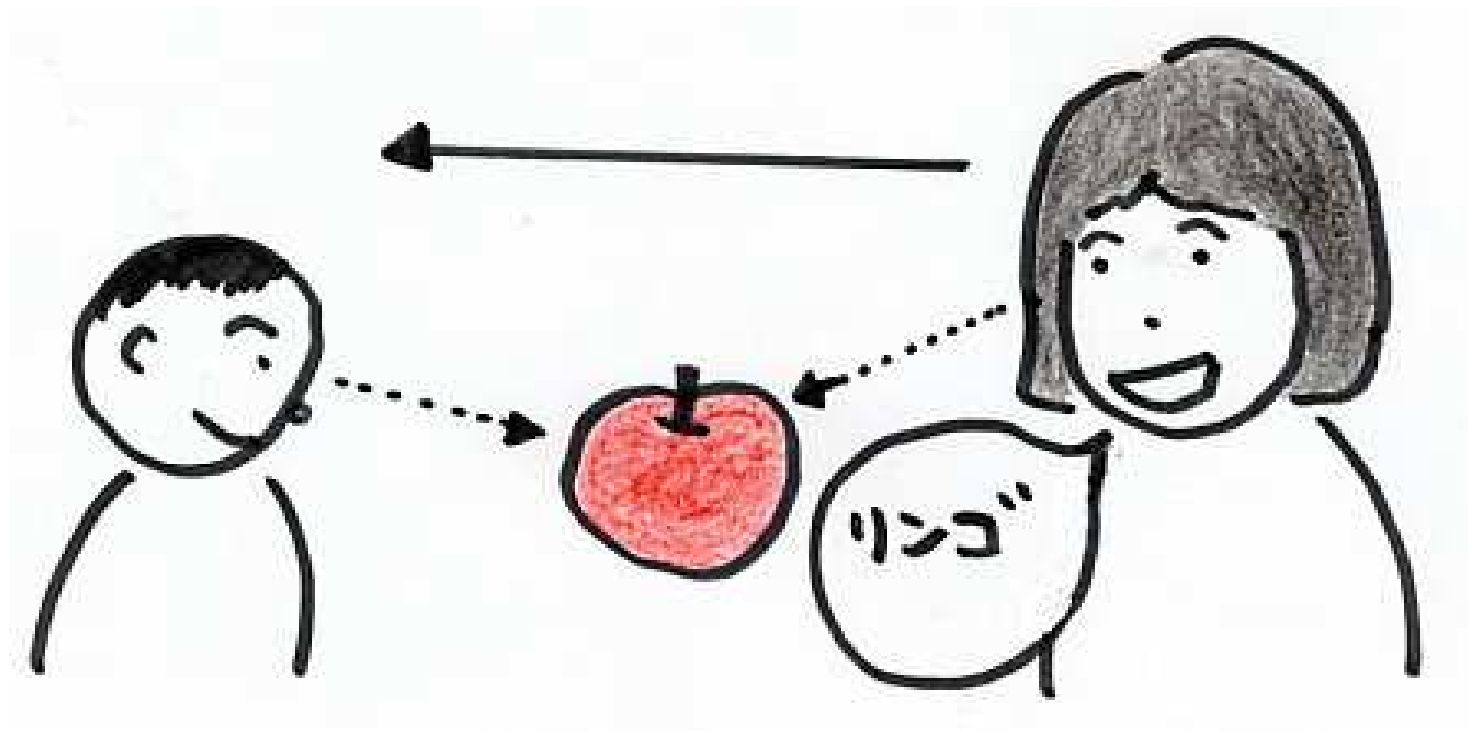
欠落

物への興味

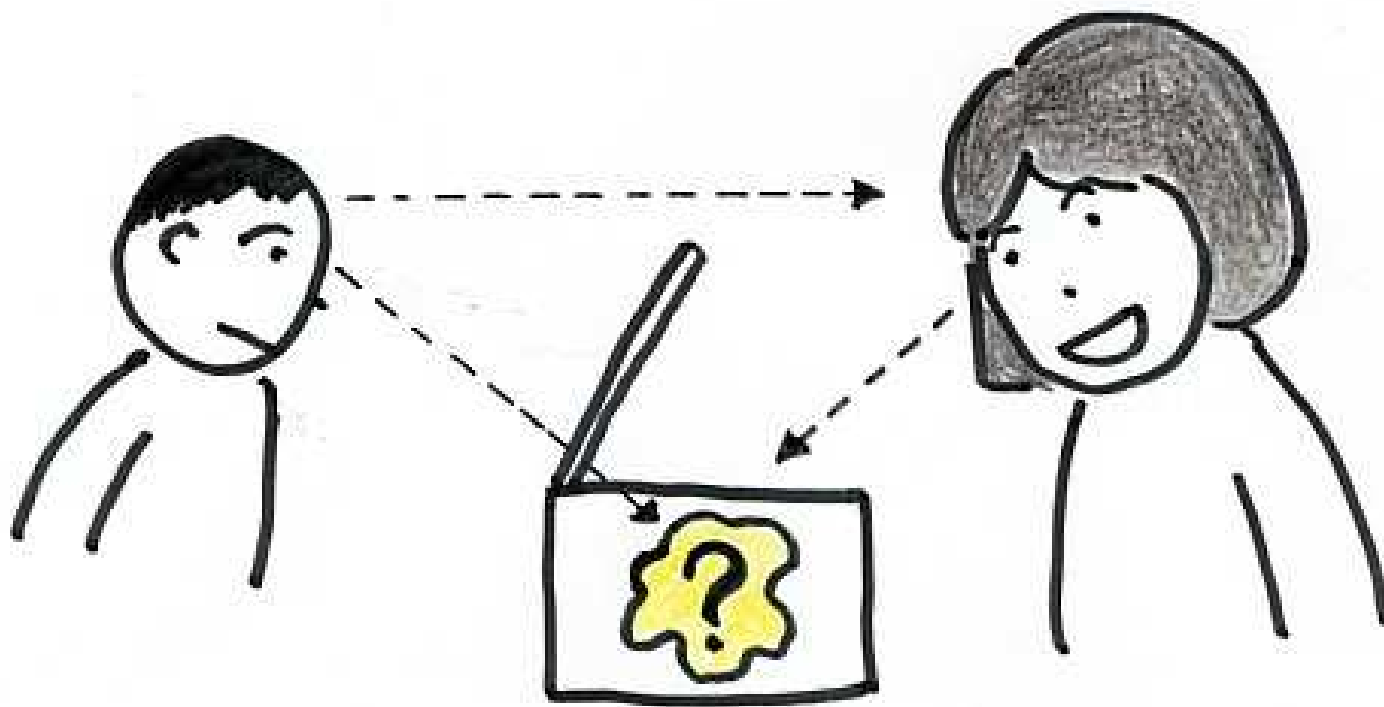
三項関係

不成立

◆三項関係①



◆三項関係②



* 視線 * 動作

コミュニケーション関係の発達 ●幼児期

10ヶ月 1才 1才半 2才 4才 5才

象徴遊び
の出現

★喃語活発化



始語
表出



2語文
表出



多語文
表出



可逆文理解

★構音完成

自閉症児

欠落

ことばの遅れ(反響言語 独言 常同言語) (異常構音)

* 記号・文字に対する関心・習得

コミュニケーション関係の発達 ●学童期～

6才

メタ言語の獲得 ➡ 高度な会話・読解・作文能力の獲得
文字の学習

★心理洞察の向上

★言語の明示的学習へ

自閉症児

言語・コミュニケーション障害

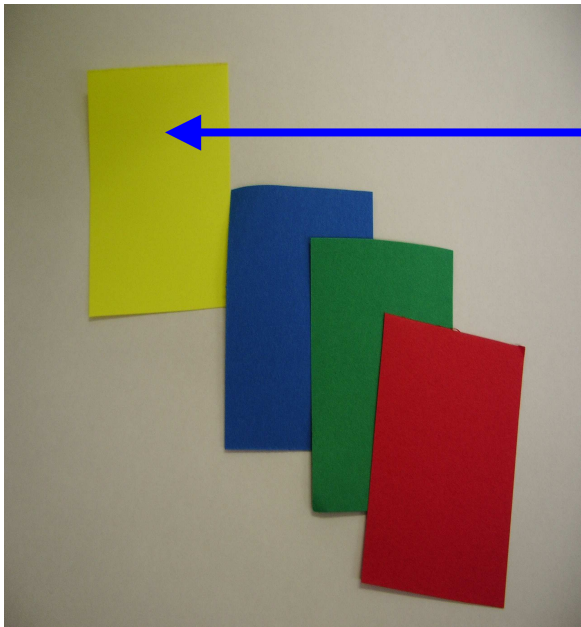
(文法・語用の誤り／ニュアンスの難しさ) (プロソディ異常)

* 特定領域に対する関心・知識

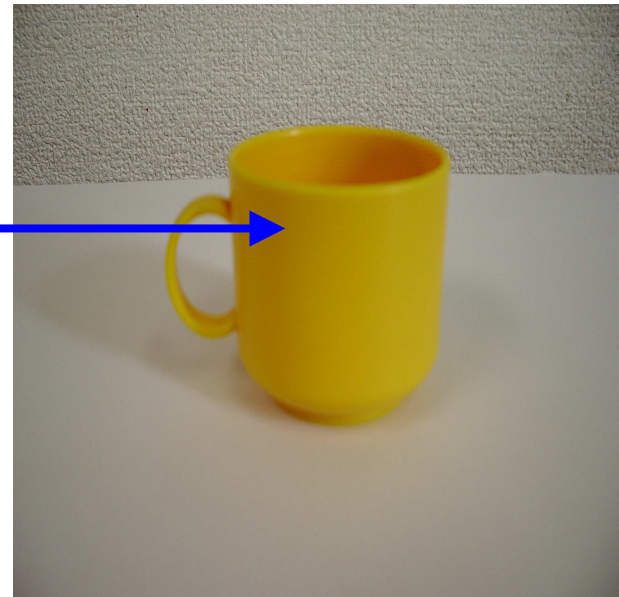
コミュニケーション能力における 諸問題

- パラ言語の障害（表情・ジェスチャーなど）
 - 多義性の理解・許容
 - 比喩・ニュアンスの理解困難
 - 「視点」「関係性」に関わる言語の困難
- ※ 会話に対する動機の乏しさ

● 事物の属性としての把握



「きいろ」



「.....」

●「視点」・「関係性」に関わる言語の困難

■ 格助詞

■ 授受表現

■ 自・他動詞

■ 判断文

■ ムード

■ 「行く」と「来る」

■ 時制・アスペクト

■ 格助詞 → 語と語の対応関係

- ・ボールが、イスの下に、ある。
- ・りんごを、ほうちょうで、切る。

- ・おとうさんが、女の子を、たたく。
 - ・女の子を、お父さんが、たたく。
- 

■授受表現 →だれを中心に述べるか (あげもらい文)

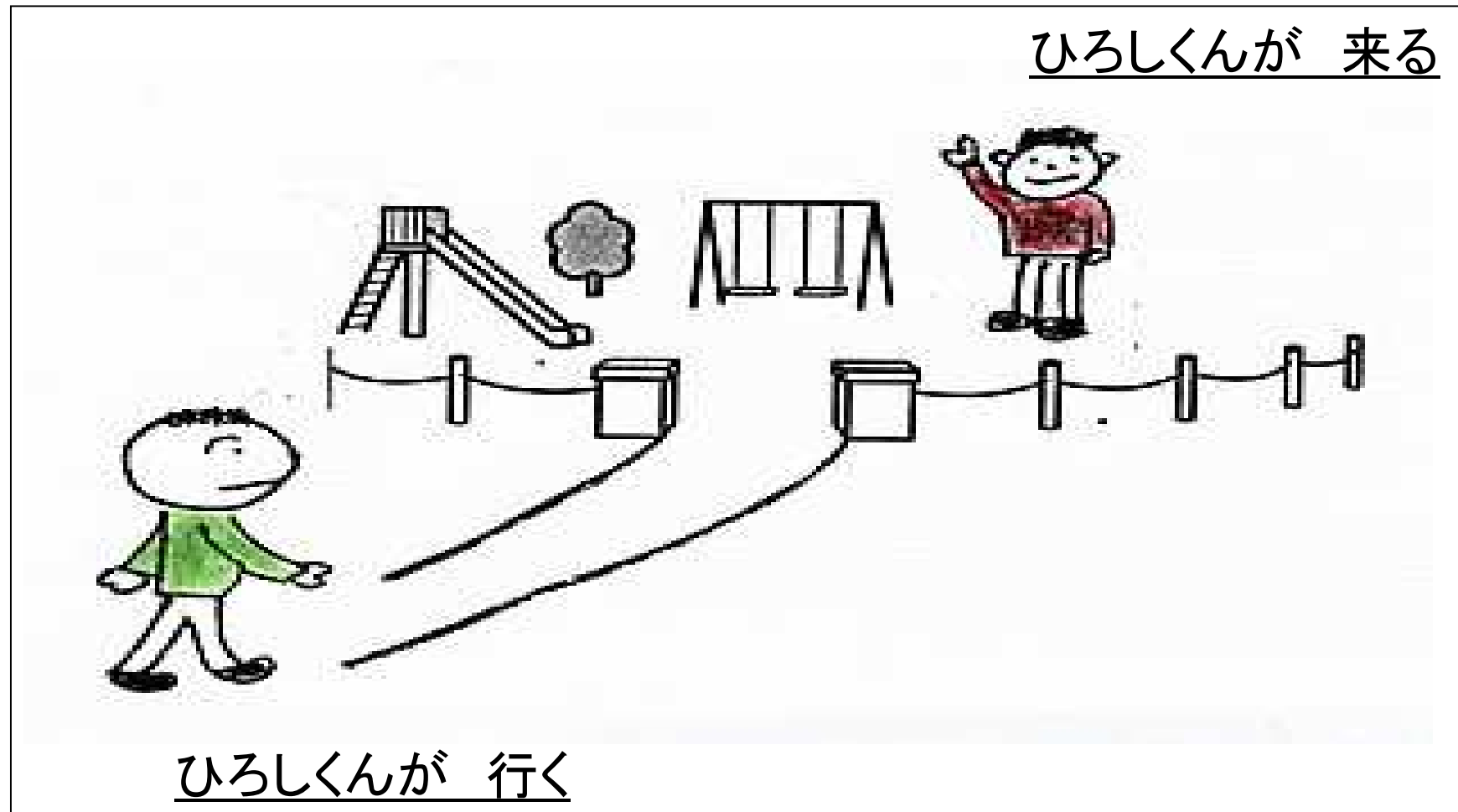
ひろし君が、妹に、花をあげた。

妹が、ひろし君に、花をもらった。

ひろし君が、妹に、花をくれた。



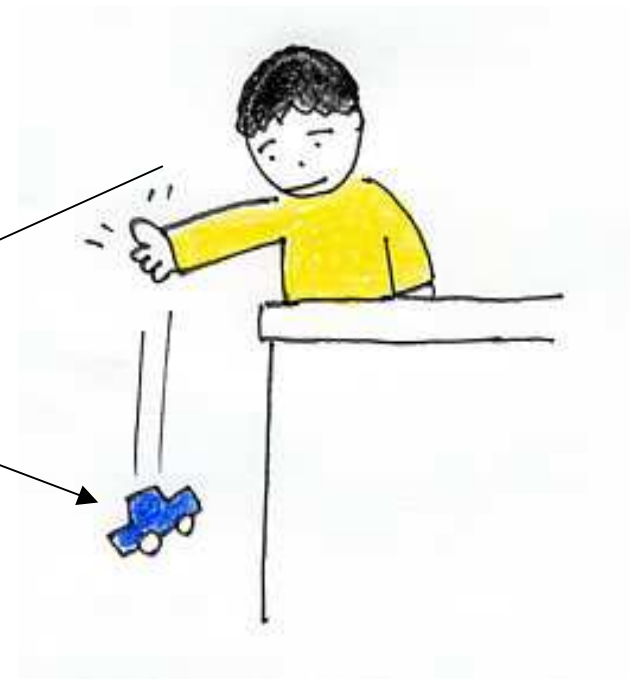
■「行く」と「来る」



■ 自動詞・他動詞 →何を中心に述べるか

おもちゃが、落ちる。

おもちゃを、落とす。

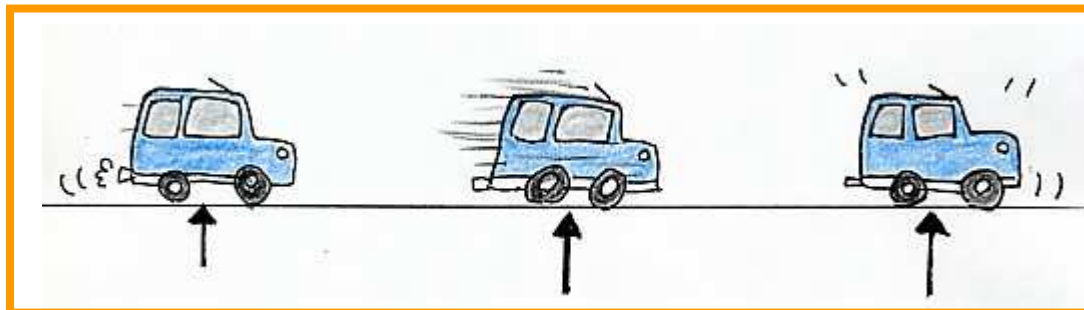


■ 時制・アスペクト →どの時点を中心に述べるか

車が、動きはじめる。

車が、動いている。

車が、動いてしまった。



■判断文 →話者の判断

「ラーメンは、みそが、いい」

「ぼくは、ウナギだ！」

■ ムード → 話者の心的態度の表現

「明日は、雨らしいよ」

「ぼくは、行くつもりだ」

言語・コミュニケーション能力の評価

- 言語能力全般
- 個別領域
- 自閉特性
- 基礎的認知能力
- 心理洞察
- その他の領域

●言語能力全般

■国リハ式〈S－S法〉言語発達遅滞検査

- * 記号－指示内容関係の段階把握
- * 基礎的認知能力の把握

■ITPA言語学習能力診断検査

- * 視覚⇔聴覚回路／自動⇔表象水準 の対比

◆＜S－S法＞ 評価シート

4-1 (2 語連鎖)	7		色 + 事物	(1)/4形式 2:1
			大小 + 事物	
	6		動作主 + 動作	
			対象 + 動作	
3-2 (音声記号)	5		色 (3)/4	(2:10)
			大小	(2:1)
			動作語成人語 (3)/5	(1:10)
			身体部位	
	4		事物名称成人語 /16	(12)/16 1:10 (3)/16 1:7

※国リハ式＜S－S法＞言語発達遅滞検査：検査用紙より転載

◆ITPA:プロフィール

ITPA プロフィール用紙

年 齢	発 達 年 齢				I T P A 得 点										評 価 点 SS
	暦 年 齢 CA	言語学 習年 齢 PLA	他 の 検 査		表 象 水 準						自 動 水 準				
					受 容 能 力		連 合 能 力		表 出 能 力		構 成 能 力		配列記憶能力		
					こ と ば の 理 解	絵 の 理 解	こ と ば の 類 推	絵 の 類 推	こ と ば の 表 現	動 作 の 表 現	文 の 構 成	絵 さ が し	数 の 記 憶	形 の 記 憶	
11-0															68
10-6															64
10-0															60
9-6															56
9-0															52
8-6															48
8-0															44
7-6															40
7-0															36
6-6															32
6-0															28
5-6															24
5-0															20
4-6															16
4-0															12
3-6															8
3-0															4

※「ITPA言語学習能力診断検査」用紙より転載

●個別領域

■語彙

■構文・文法

■語用 [質問－応答関係]

[コミュニケーション機能]

[定義・説明能力]

■構音

■プロソディ

■文字能力

■聴解・読解能力

質問一応答関係検査

検者 _____ 検査年月日 _____

氏名 _____ 年齢 (:) 生年月日 _____

I. 日常的質問

項目	+-	発話
* (1) ~ちゃんはいくつ? 追加: 歳はいくつ・何歳?		
* (2) お名前は何?		
* (3) パパ/ママ/兄弟姉妹はどこ に行った・にいる? (同行して いない身近な人についてきく)		
* (4) 今日は誰と来た?		
* (5) どうやってきた? 追加: 何に乗ってきた?		

※「質問一応答関係検査」用紙より転載

コミュニケーション機能チェックリスト

お子さんがことばや身ぶりで伝えようとする内容にチェックするか○をつけて下さい。
発話の例も具体的に書いて下さい。

氏名 _____ 記入年月日 _____

機能	発話例
要求	☐ チョウダイ・～シテ
許可	☐ ～シテイイ？
勧誘	☐ ～シヨウ
拒否	☐ イヤ・～シナイ
報告 目の前の 出来事の報告	☐ ワンワンイルヨ
過去の経験の 報告	☐ ～シタヨ (園での出来事など)
未来の出来事 の確認・予告	☐ アシタ～ダネ アシタ～イコウネ

※＜S－S法＞言語発達遅滞検査：検査用紙より転載

● 自閉特性

■ 固執

■ 孤立

■ 知覚異常

■ 興味・関心

●基礎的認知能力

- 共同注視／視線・指差しの理解
- 聴覚的・視覚的把持力
- 音韻認識能力
- 注意能力
- 異同弁別能力
- 排他律の理解

●心理洞察

■他者心理の洞察

意図 ／ 知識(情報) ／ 感情

■自己心理の洞察

知識 ／ 経験 ／ 能力

知ってる したことある できる

→自己の思考・意思

◆サリーとアン課題



◆自己洞察

けい げん
経験 9

(月 日)

自分が 乗ったことがあるもの・乗ったことがないもの

ある ・ ない ・ わからない

に、○をつけてね。



① 新幹線

ある ・ ない ・ わからない

② 自転車

ある ・ ない ・ わからない

③ タクシー

ある ・ ない ・ わからない

④ ヘリコプター

ある ・ ない ・ わからない

⑤ オートバイ

ある ・ ない ・ わからない

●その他の領域

■知能

■全般的発達

■運動

■情緒・心理

■作業規則

■数的能力

《言語指導の流れと方法》

基礎的認知プロセスの形成

物の操作・関係性の理解

●動作性課題

ボール入れ・積木・ペグさし・羽目板・見本合わせetc

★事物の永続性／物理的因果関係／異同弁別／作業規則

物の背景に在る他者への気づき

物の延長(道具)としての
他者の把握

意図を持つ存在としての人の把握

共同注視／参照的注視／指差しの理解／排他律の理解

三項関係の成立 = 言語習得の基盤

自己の存在への気づき

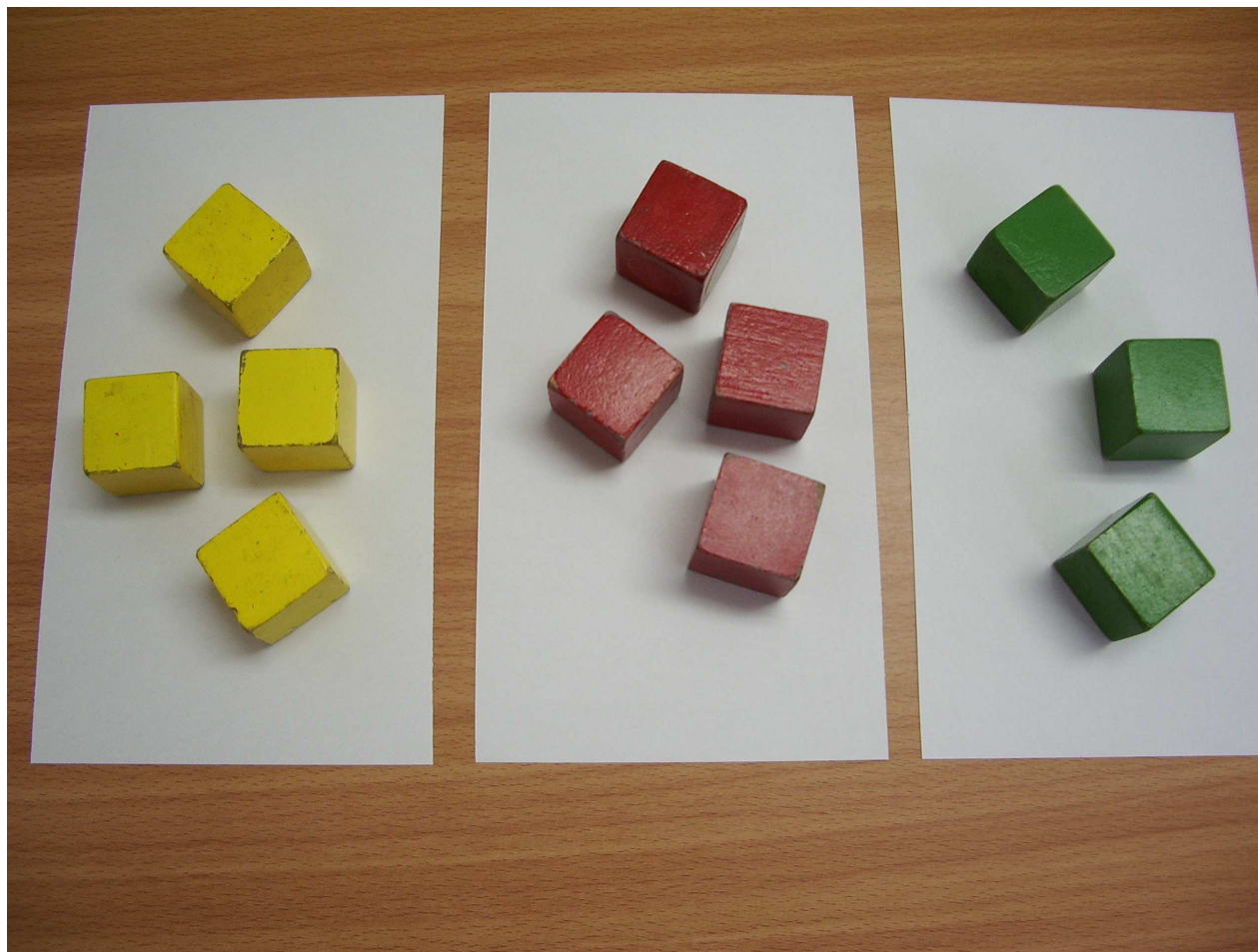
◆動作性課題： 物理的因果關係①



◆動作性課題： 物理的因果關係②



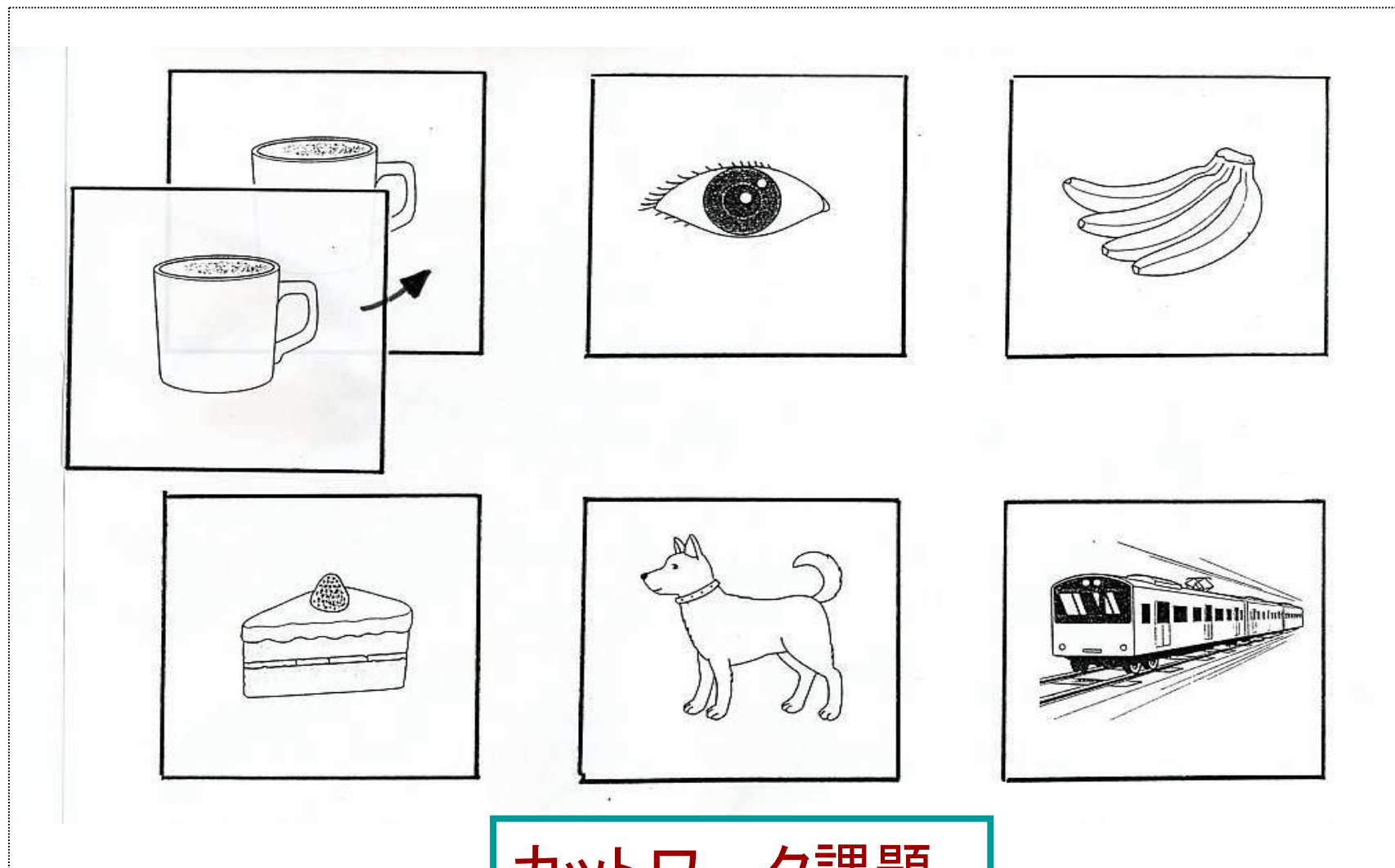
◆動作性課題： 仕分け①



◆動作性課題： 仕分け②



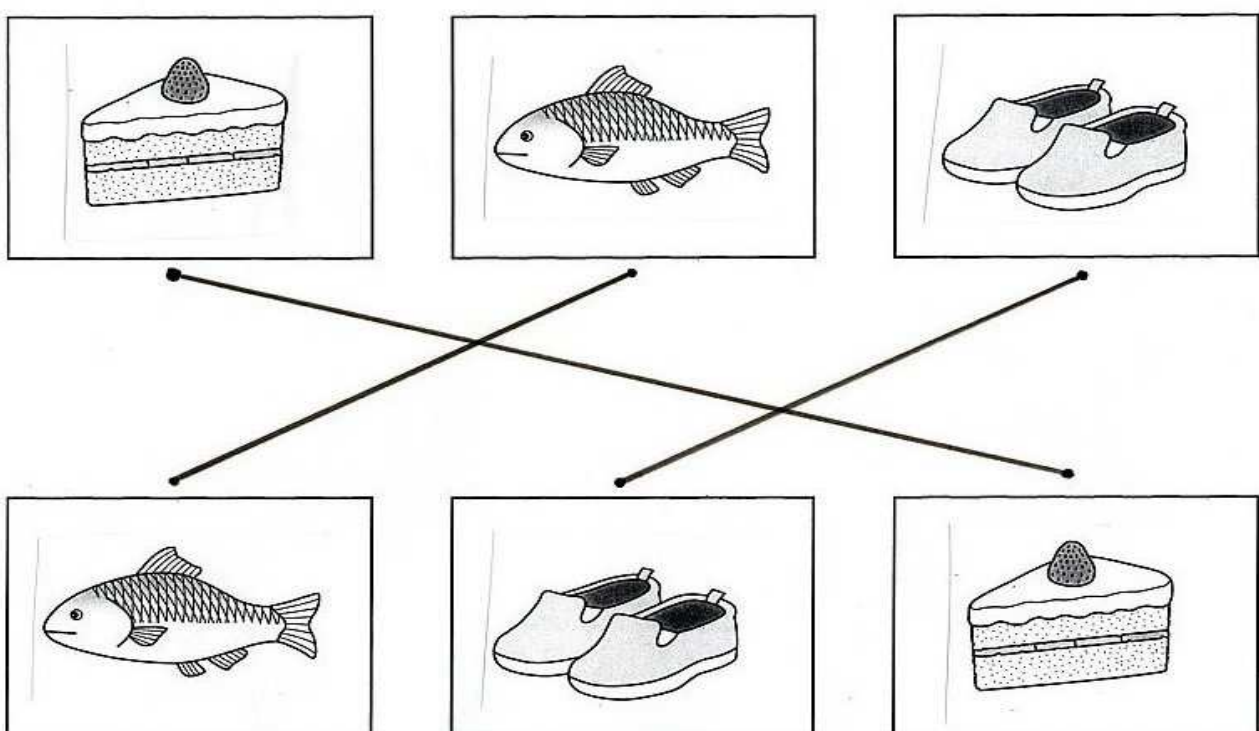
◆動作性課題： マッチング①



カットワーク課題

◆動作性課題： マッチング②

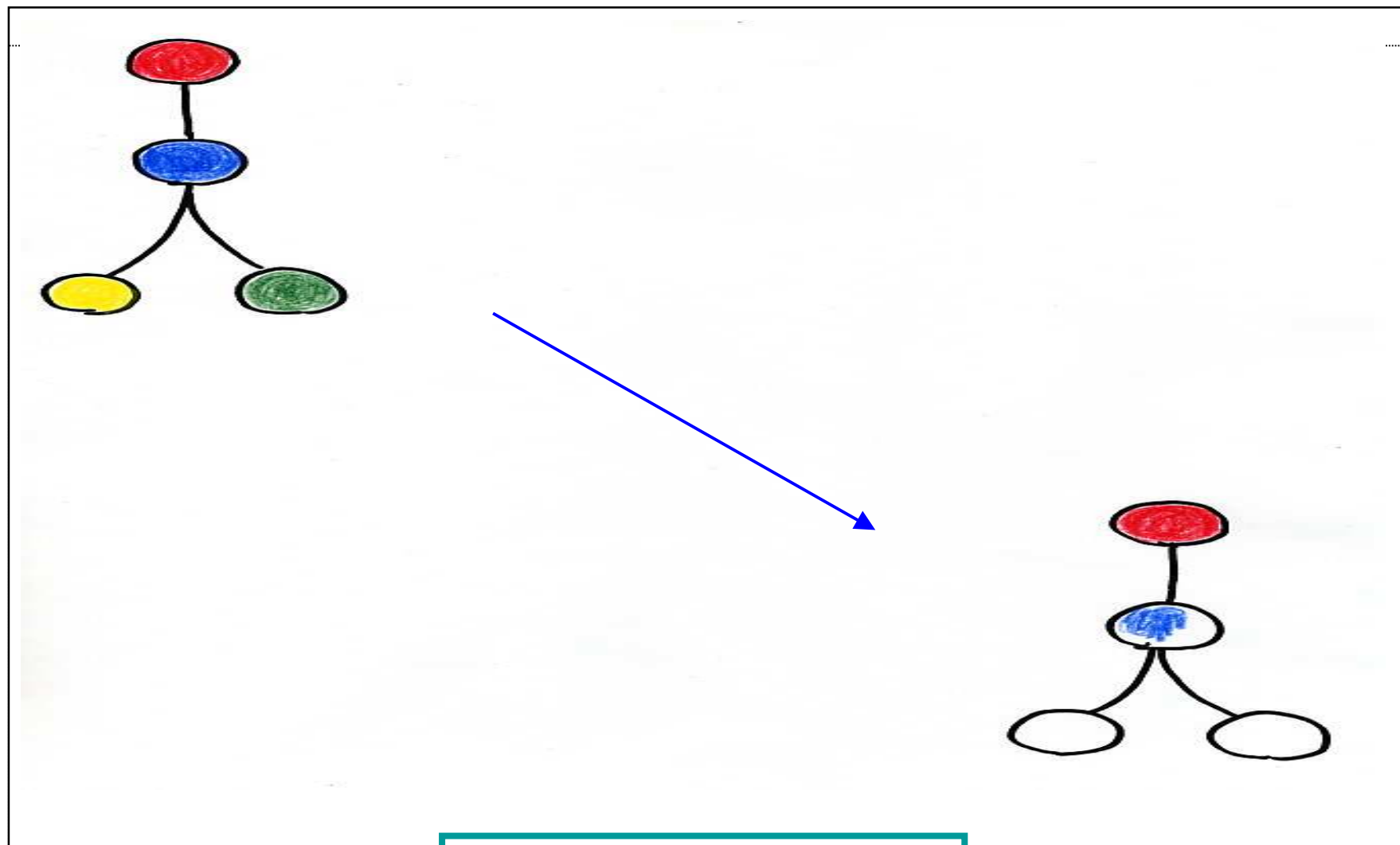
せんでむすぼう (月 日)



ことばのテーブル

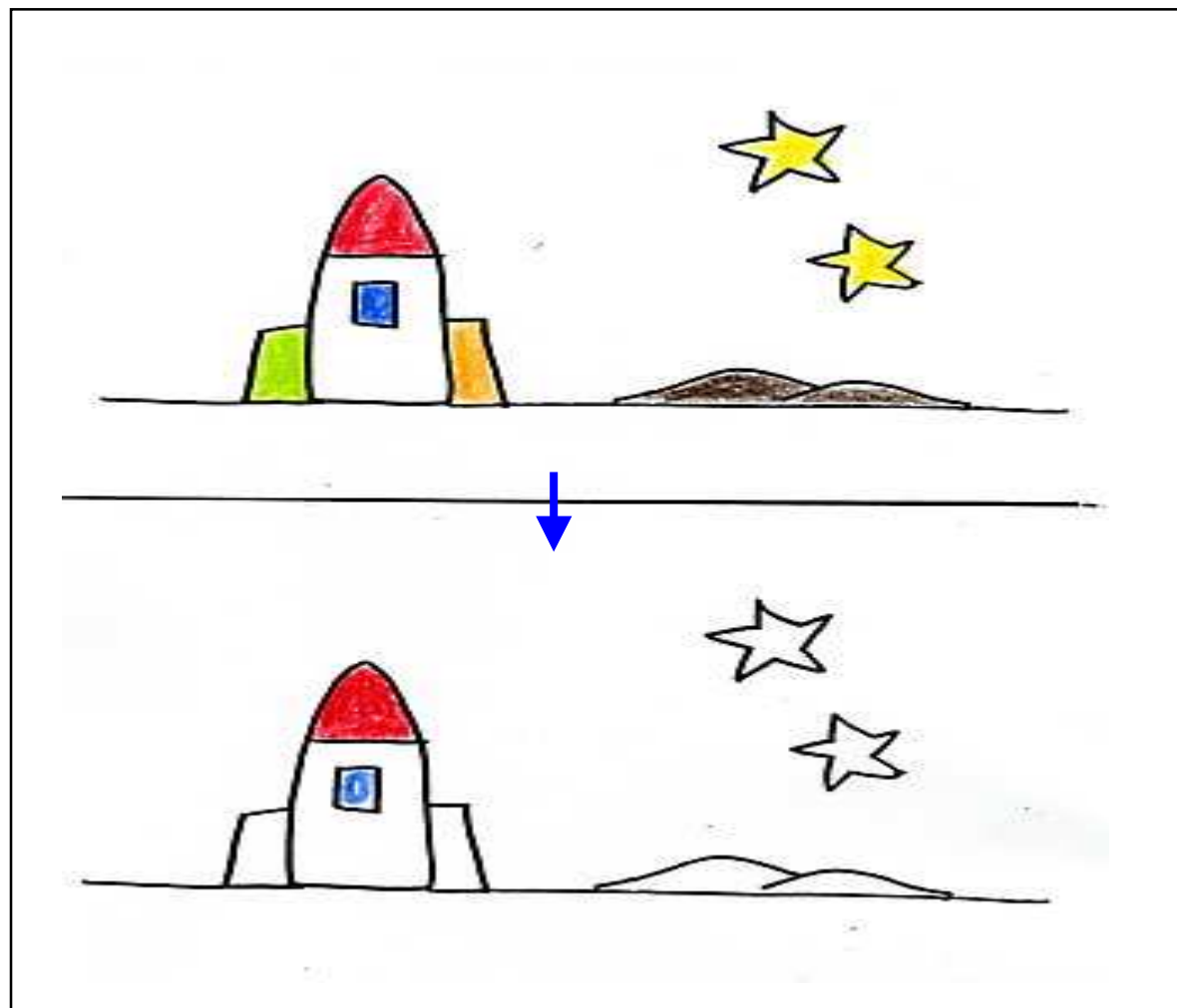
ライン・マッチング

◆動作性課題： 投影①



見本ぬりえ

◆動作性課題： 投影②

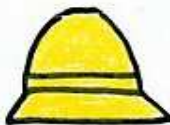


見本ぬりえ

◆動作性課題：見本合わせ①

みほんにあわせて いろをぬろう (月 日)

み ほん

		
---	---	---

Below the box, there are two rows of items for coloring:

Row 1:    

Row 2:    

◆動作性課題 : 見本合わせ②

1	2	3	4	5
○		×	=	◎

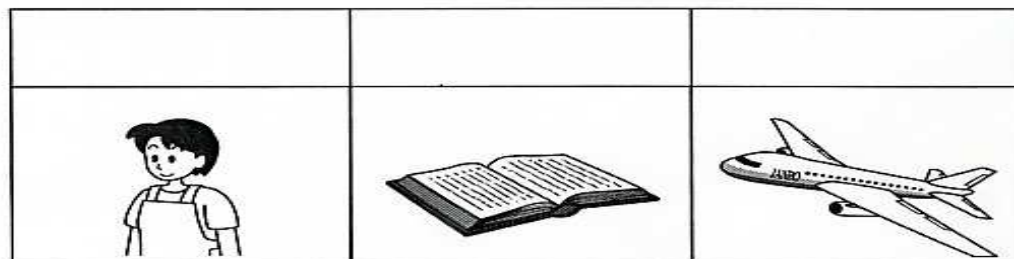
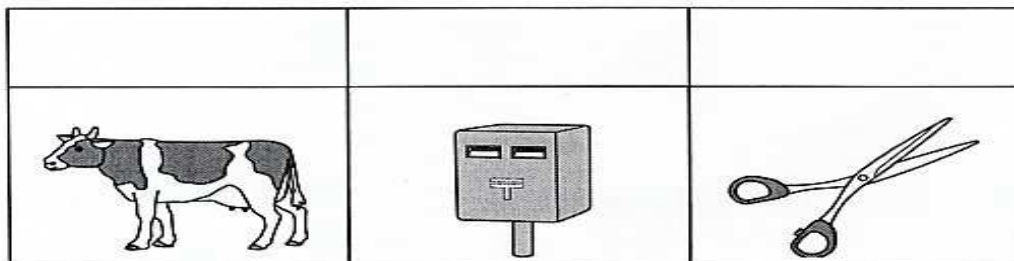
4	1	5	3	2	5	1	2	3	4
=	○								

◆動作性課題：符号対応

説明⑥

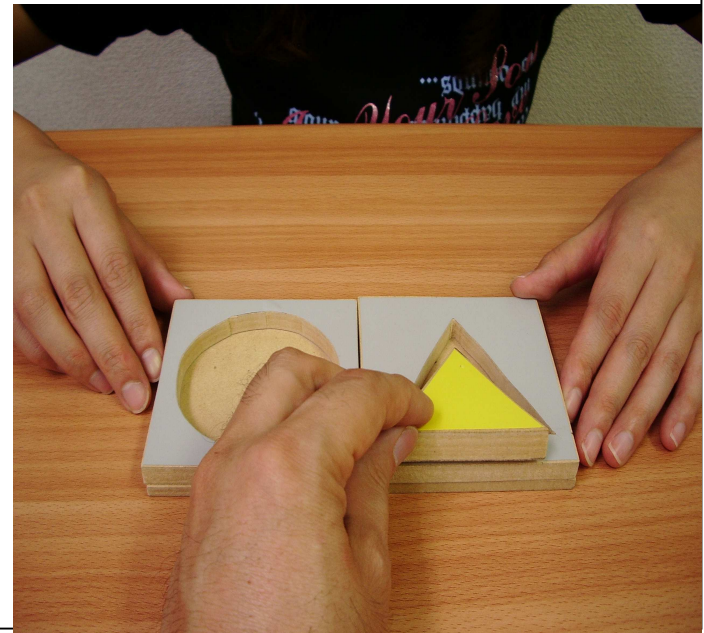
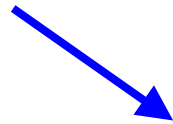
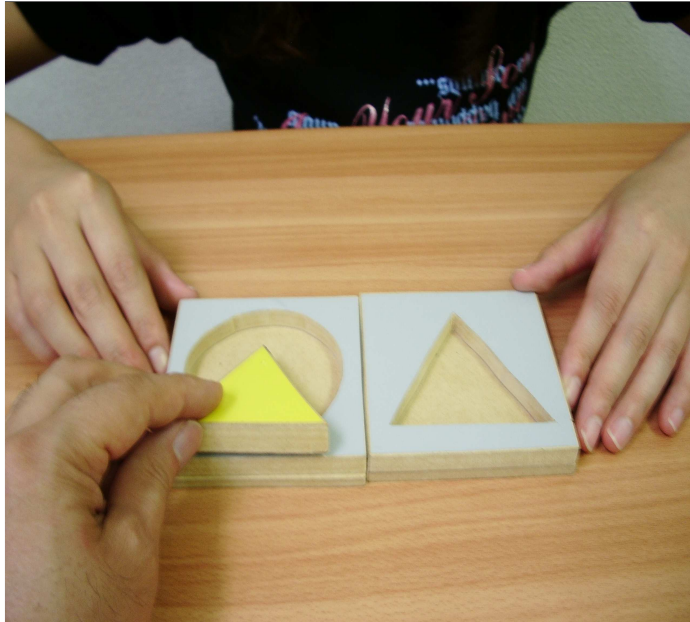
(がつ にち)

どれですか？

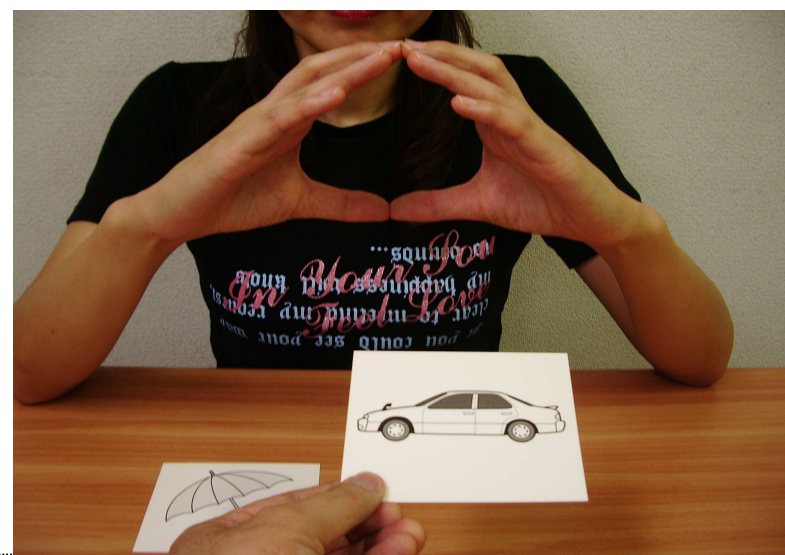
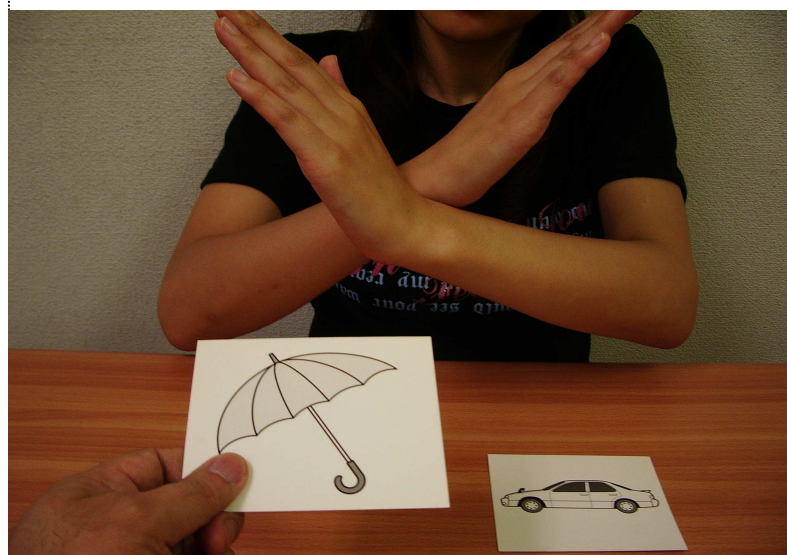
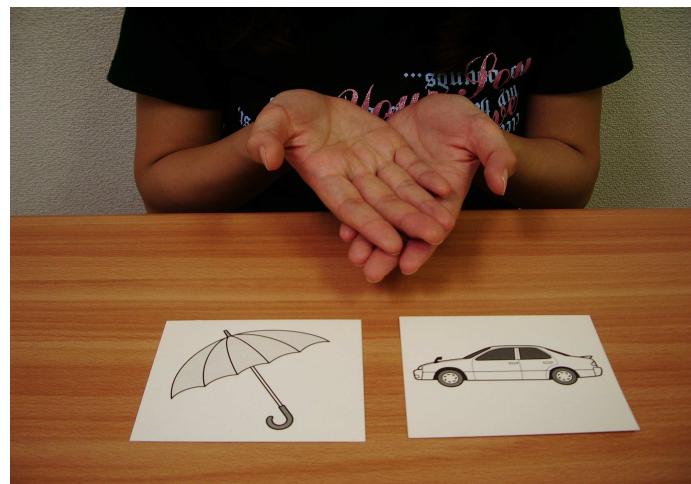


1	2	3
そらをとぶ	よむもの	おんなのひと
4	5	6
あかいもの	もーもーなく	きるもの

★ 排他律 : モノ対モノ



★ 排他律 : 対人コミュニケーション



言語指導の方法

- 認知・言語的アプローチ
- 語用論的アプローチ
- 情動的交流遊び
- AACを用いた指導
- TEACCHプログラムによる指導
- 視覚記号を媒体とした指導
- プロソディの訓練

● 認知・言語的アプローチ

(≡ 行動分析学的アプローチ:オペラント条件付け)

〔代表的手法〕 ■〈S－S法〉に基づく指導

◎対象領域・習得目標の設定

例:3語連鎖:動詞文の受信・表出訓練



- 指導効果が明確／スモールステップが可能
- ×般化の難しさ／自発性の乏しさ

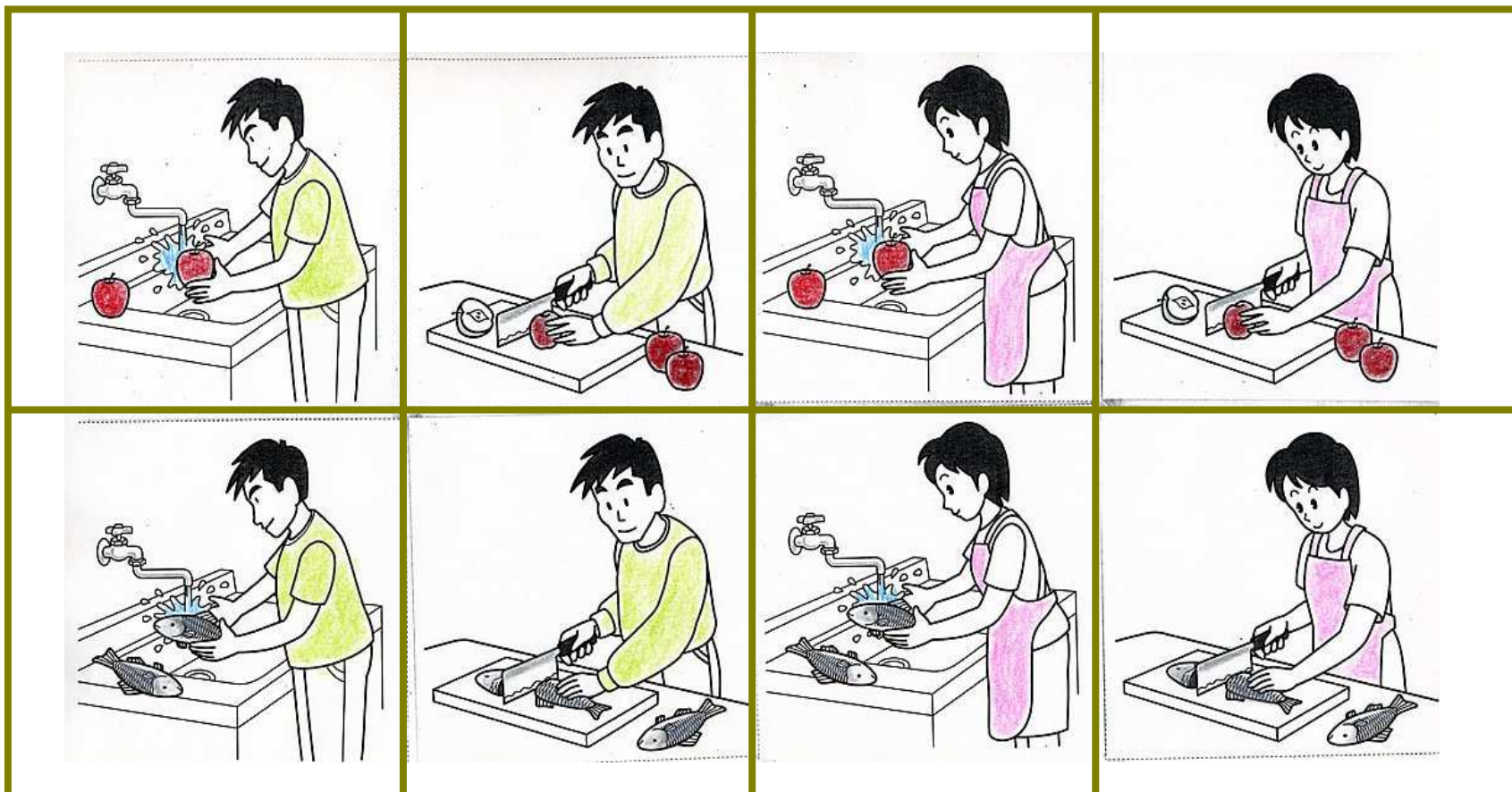
◆ 3語連鎖の学習： 表出

～が ～を たべる



◆ 3語連鎖の学習： 受信

～が ～を 洗う・切る



● 語用論的アプローチ

〔代表的手法〕 ■ インリアルアプローチ

◎ 日常的コミュニケーションを通しての訓練

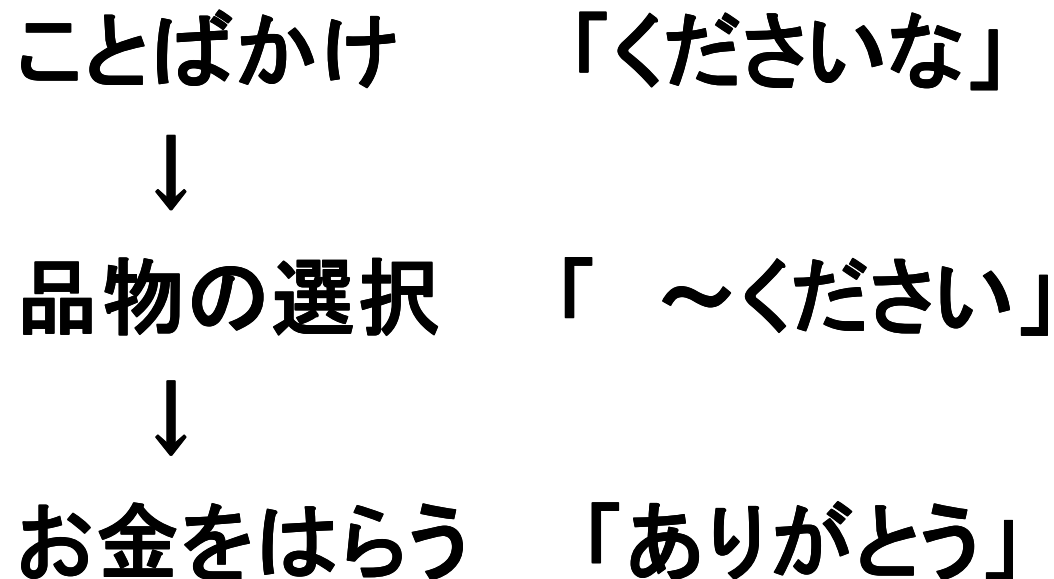
例： ★ 伝達場面設定型指導法
★ 意味的随伴性

○ 自発性の高さ／日常性の高さ
× 意図的な指導の立てにくさ

【伝達場面設定型指導法】

スクリプト(生活文脈)からの言語獲得

買物ごっこ



語彙・文法

コミュニケーション

主導性

能動性

● 情動的交流遊び

(≡ 遊戯療法)

◎ 遊びを通しての共感性の向上

〔指導例〕 ◆ くすぐり遊び

◆ イナイイナイバア遊び

表情・発声・注目・アイコンタクト・働きかけ



変化を評価

○ 自閉の本質へのアプローチ

× 指導範囲の限定

● AAC（補助・代替コミュニケーション）を 用いた指導

〔代表的手法〕 ■ マカトン法

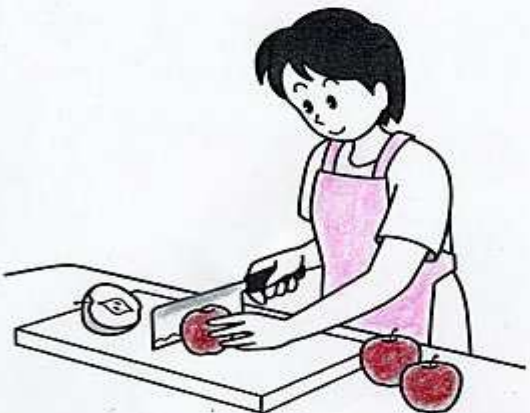
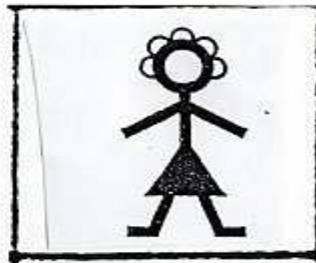
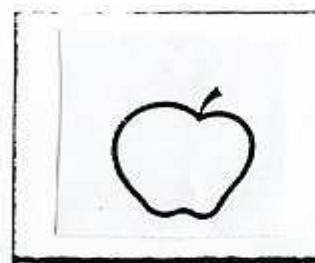
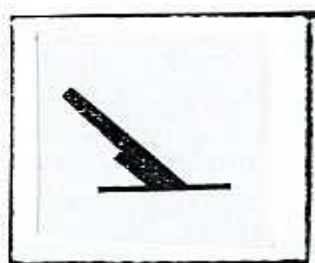
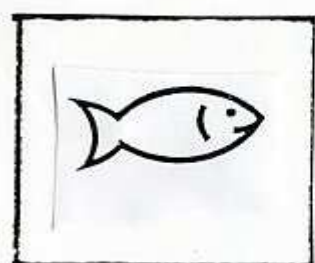
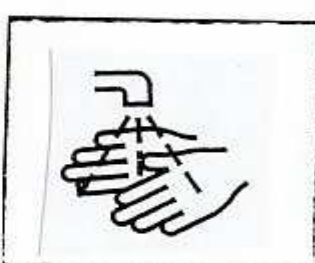
◎ 特殊なサイン・シンボルの使用

- * 現時点でのコミュニケーション手段として
- * 言語発達の促進

○ 実用的コミュニケーション

- × 使用範囲の限定（伝達内容・使用環境）

■ マカトン・シンボルを用いた 語連鎖の学習

※記号は、マカトン・シンボルより転載

●TEACCHプログラムによる指導

◎「構造化」を基本とした学習

◆空間の構造化：

＊ 場所の境界 ＊ 刺激物の除去

◆時間の構造化

＊ スケジュール

◎個別化されたプログラム

◆ワークシステム

①内容 ②量 ③終了 ④次の予定 の情報提供

■ 学習スケジュールの構造化①

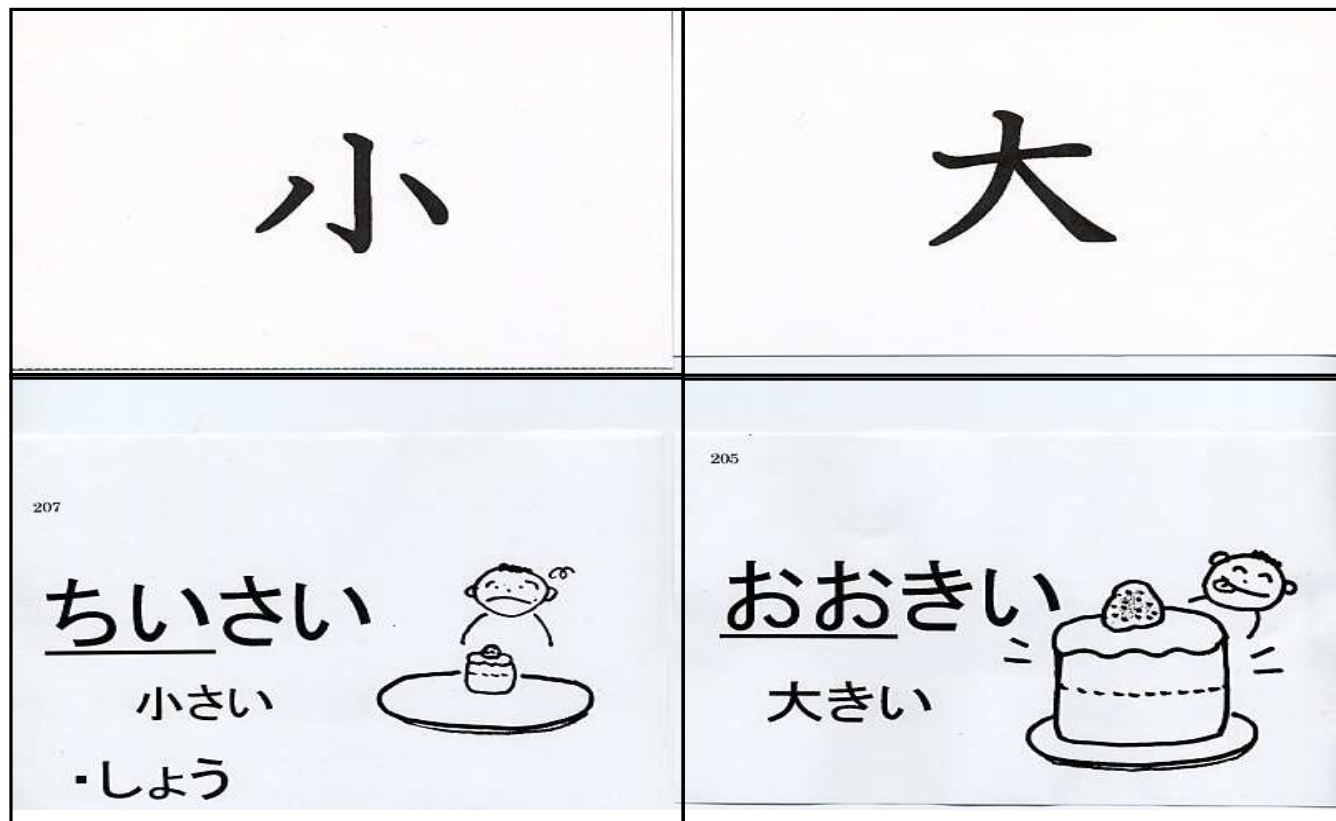


■ 学習スケジュールの構造化②



● 視覚記号を媒体とした指導

〔手法例〕 ■ 漢字学習を通しての概念学習



漢字カード

★指導事例

◆大小概念語の学習

身振りまでは理解可能だが、音声言語習得困難



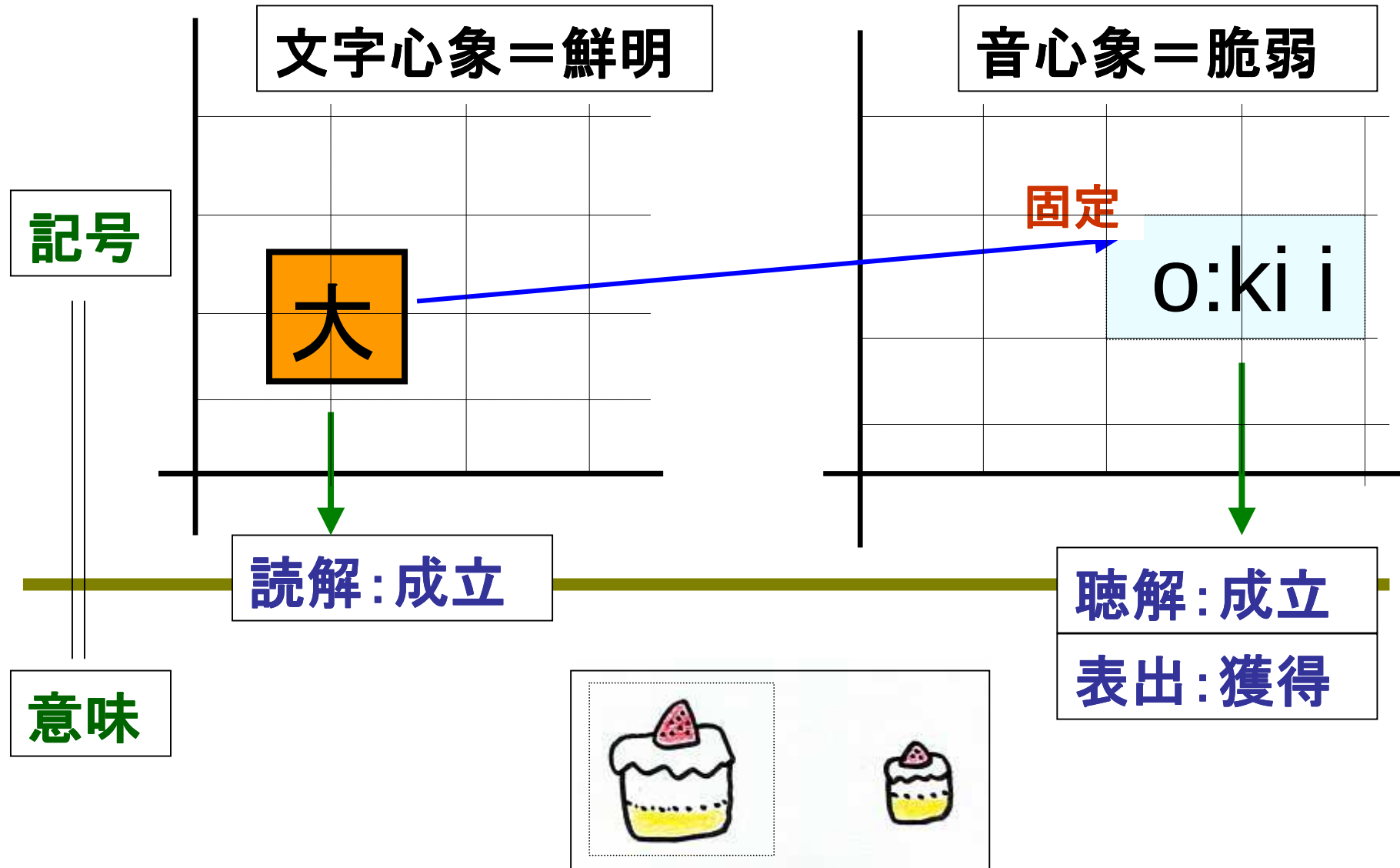
漢字カードを素材として「大」「小」の漢字導入



漢字と対応した理解（読解）が成立
音声言語と対応した理解（聴解）が成立
音声言語の表主が可能となる

ほぼ
同時に
確立

* 文字を媒体とした言語習得



●プロソディの訓練： 音韻・プロソディの認識

●音韻弁別 カサ ⇔ アサ

●拍(モーラ) ●タ ●イ ●コ

●アクセント デ ン ワ ト マ ト

●長さ マチ ⇔ マーチ ⇔ マッチ

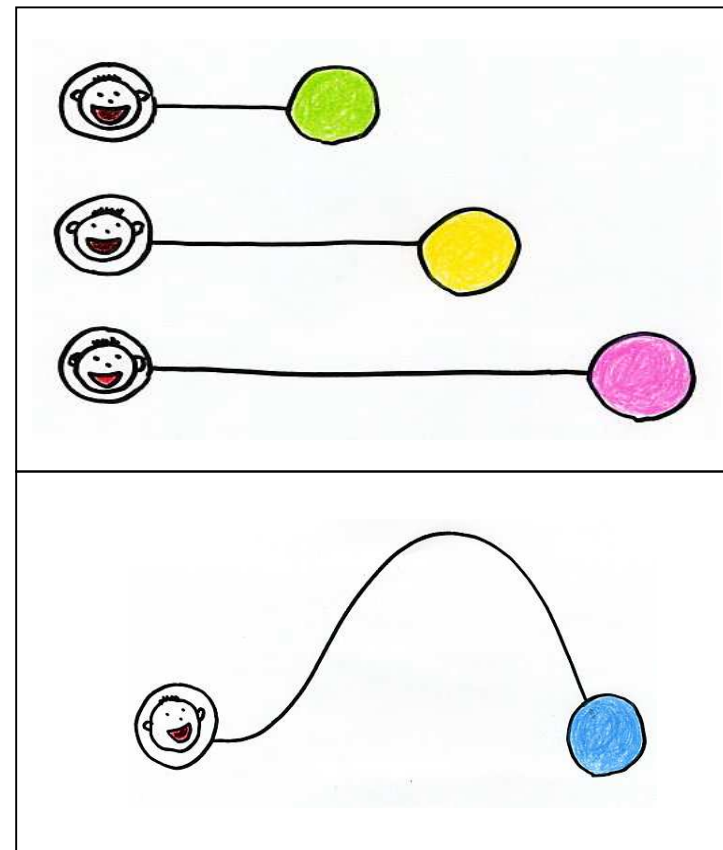
● プロソディの訓練

● 拍（モーラ） * 音の数だけ手をたたこう

● 音の長さ

● アクセント（高低）

● 会話練習



◆プロソディの訓練： 会話練習

かいわれんしゅう
会話練習50:八百屋さんで

テーマ



お母さん	こんにちは。↗
八百屋さん	あ、いらっしゃいませ。↘
お母さん	えーと、ダイコン2本もらえる？ ↗
八百屋さん	はい、まいど。ダイコン1本100えんです。
お母さん	それからー、ニンジンも1本、もらおうかな。
八百屋さん	はい、ニンジン1本ね。ニンジンは・・1本50円。
お母さん	ぜんぶで、いくらになる？
八百屋さん	えーと、ダイコン2本、ニンジン1本で・・ぜんぶで 250円です。

練習

● ぜんぶで =みんなで
100円と30円と20円 →150円
1組20人、2組23人→ 43人
赤玉5個と白玉3個 → 8個

語句

※みじかい文を作ってみましょう

もらう

≡ 買う

いくら

自閉症児の指導におけるポイント

- 学習を円滑に進めるために
- 困難な領域の能力向上のために

● 学習を円滑に進めるために

- パターン学習

- 枠組み化

- 興味・関心の活用

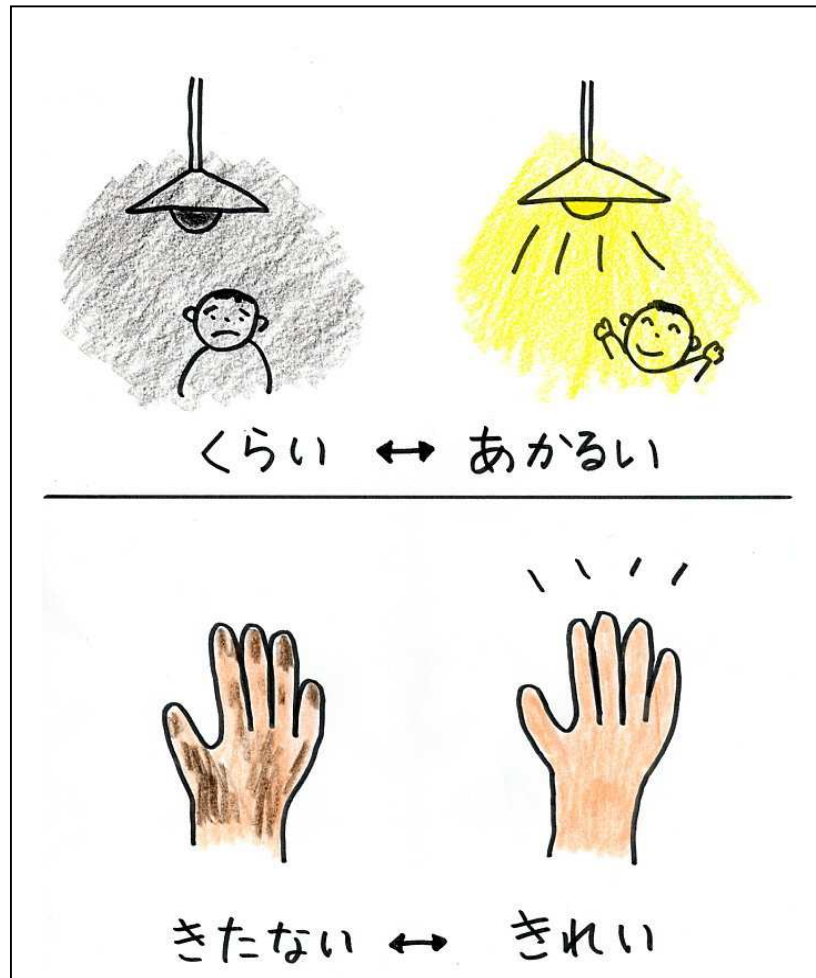
- 暗記能力の活用

- 系列・序列の活用

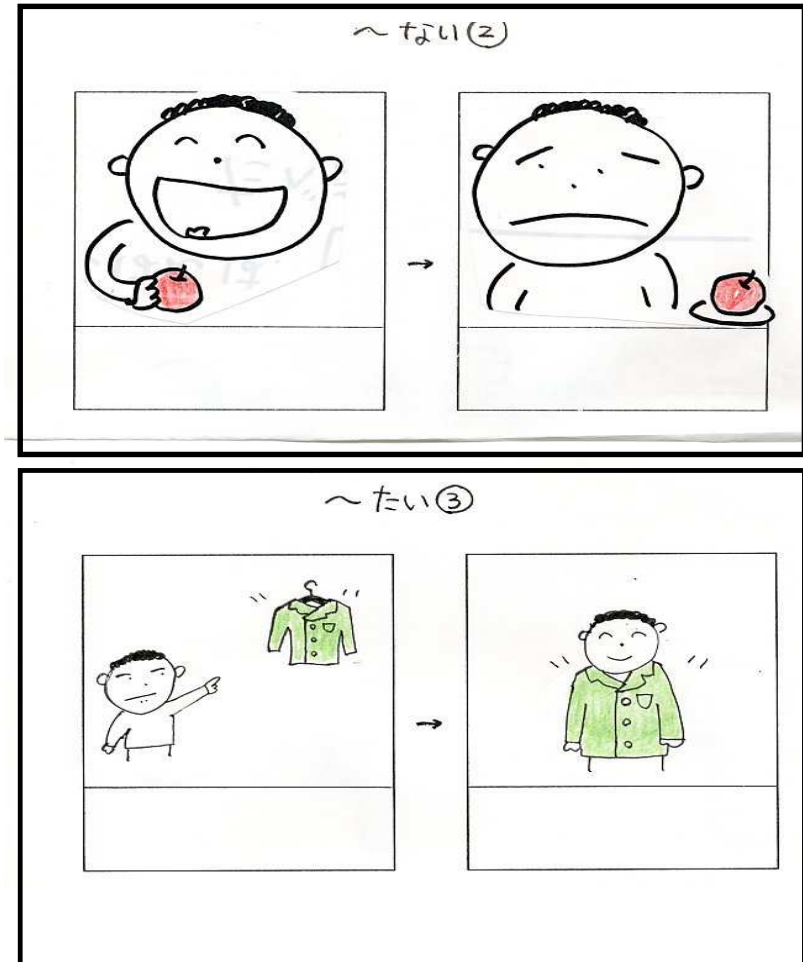
- 得意な課題の取り入れ

■ パターン学習・枠組化：学習例

◆ 反対語の学習



◆ 動詞活用の学習



■パターン学習・枠組化：教材枠

■ 系列・序列の活用①

ん	わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
	/	り	/	み	ひ	に	ち	し	き	い
	/	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
	/	れ	/	め	へ	ね	て	せ	け	え
を	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お	

■ 系列・序列の活用②

すきなもの スリー ベスト・3

ばん ぐみ
テレビ番組

だい い
第1位

だい い
第2位

だい い
第3位

● 困難な領域の能力向上のために

- 多種多様な課題構造の提示
- 能動的・創造的解答の工夫
- 複数の学習要素の入った課題
- 俯瞰的・客観的視点トレーニング

◆学習例① : ことばをつくろう

ことばをつくろう (月 日)

あ か り く
ま し さ に

か さ → あ し → →

← ←

ゴール

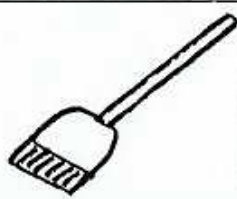
ことばのテーブル

◆学習例② : かいもの計算

そうじて
つかうもの

かいもの けいさん

(月 日

				
12 円	24 円	33 円	16 円	15 円

ぞうきん	→	16
ちいとり	+	12
		28

	→	
	+	

	→	
	+	

ことばのテーブル

◆学習例③: ヒントゲーム



課題とは、他者の意図が具現化されたもの。

課題構造の洞察の向上は、他者の理解に繋がって行く。



自閉症児にとって、課題学習は、
他者との共感性形成の重要な「場」。

●指導上のポイント

パターンの積み重ね
→多様化・複雑化・多層化



本質的理解へ



現実場面への般化



状況認識能力・場面对応能力の向上



固執の軽減・情緒の安定

●留意すべき点

■子どもが自己拘束的な、
学習ストレスに陥らないように注意する



★とくに、暗記能力が高く、受動タイプで、
固執傾向が強い子ども

● 家庭でのコミュニケーション

- 「ことばの遅れ」への対応

- コミュニケーション手段の工夫

- 子どもの自閉症状の理解・対応の工夫

■「ことばの遅れ」への対応

- ◆ことばに触れる
- ◆ことばを広げる
- ◆ことばを引き出す

◆ことばに触れる

◎経験

◎事象の言語化

◎心理的共有

◆ことばを広げる

◎意味的随伴性

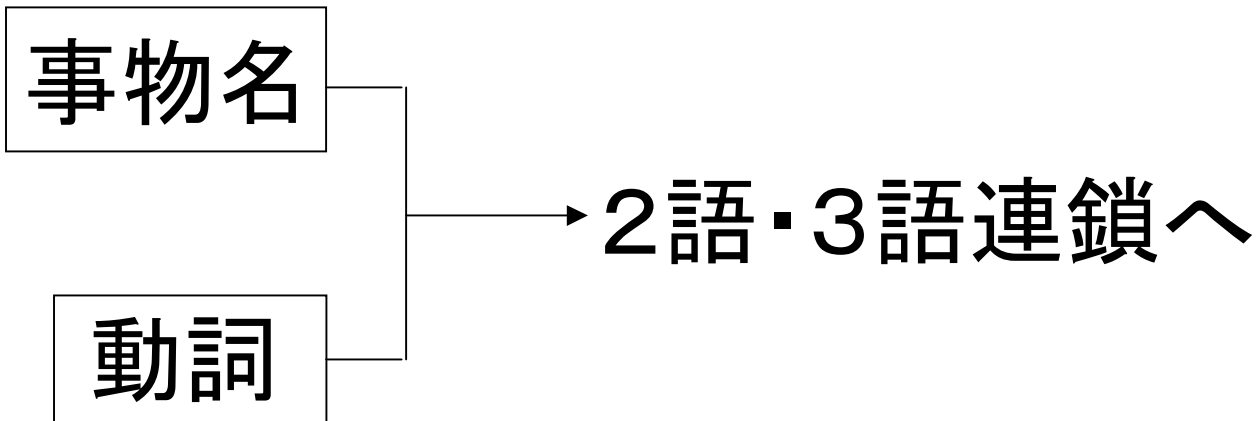
- ★文法情報の付加:「ネコが、ねてるね」
- ★意味の拡充:「ネコ、ないているよ」
- ★関連内容の付加:「お魚、すきかな」

◎語の置き換え

例:「ぜんぶで」↔「みんなで」

◆ことばを引き出す

▲要求伝達場面の設定



▲語想起

＊ 眼前にない事象（事物や事柄）の伝達

■コミュニケーション手段の工夫

★現時点でのコミュニケーション 方法を探す

- * ポインティング・ノート
- * 特定のサインの使用
- * 文字盤・筆談
- * 描画

* ポインティング・ノート



■ 子どもの自閉症状の理解

・ 対応の工夫

◆ 知覚異常
過敏性／偏向

◆ 特異的症状の許容

◆ 行動・思考傾向の把握

●おわりに

★ 自閉症スペクトラムの中に、自分を位置づけてみる



連続する部分と不連続な部分

同じもの／異なるもの、双方の視点が必要

【参考図書】

○「ことばの発達と障害」 大修館書店 第1巻～第3巻

○「自閉症児の言語指導」 学苑社

○「言語聴覚士のための言語発達遅滞ガイダンス」

医学書院

○「自閉症治療スペクトラム」 金剛出版

○「自閉症とマインド・ブラインドネス」 青土社

○「自閉症と心の発達」 学苑社

○「心を生み出す脳のシステム」 NHKブックス